

令和5年度版

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査の結果と考察

(分野別)

油木高校魅力化プロジェクト 編



中高次世代議会
(令和5年12月26日)



神石高原町教育委員会

目 次

I. 油木高校魅力化+プロジェクト 編

	ページ
1. 油木高校魅力化+プロジェクトに係る直接的設問について ……	1 ～ 7
2. 油木高校魅力アップに係る町の支援について ……………	8 ～ 13
3. 油木高校魅力アップ事業に係る総合的な成果指標について ……	14 ～ 21

※ アンケート実施期間：令和6年1月11日～26日

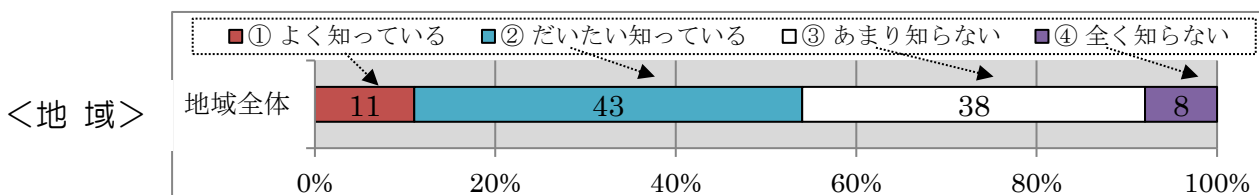
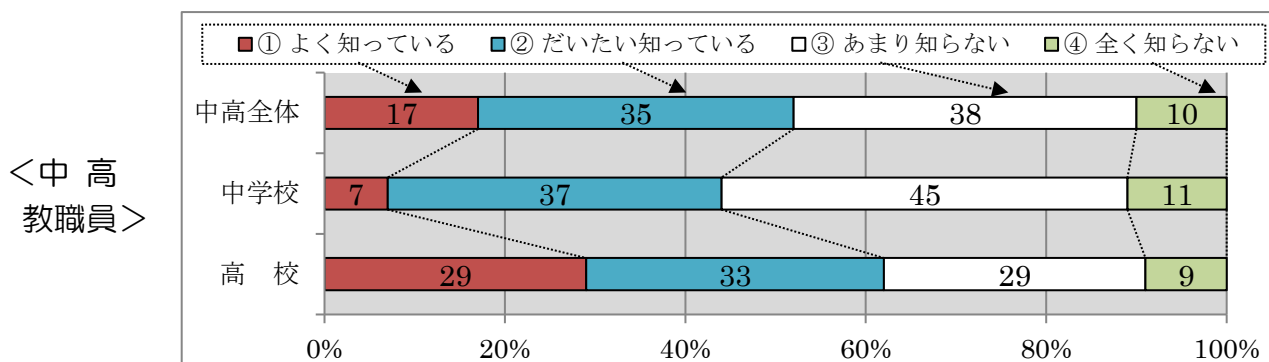
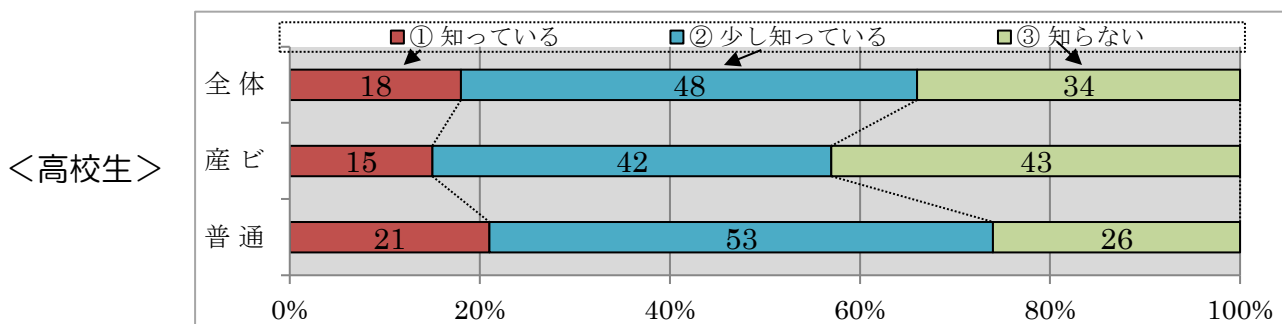
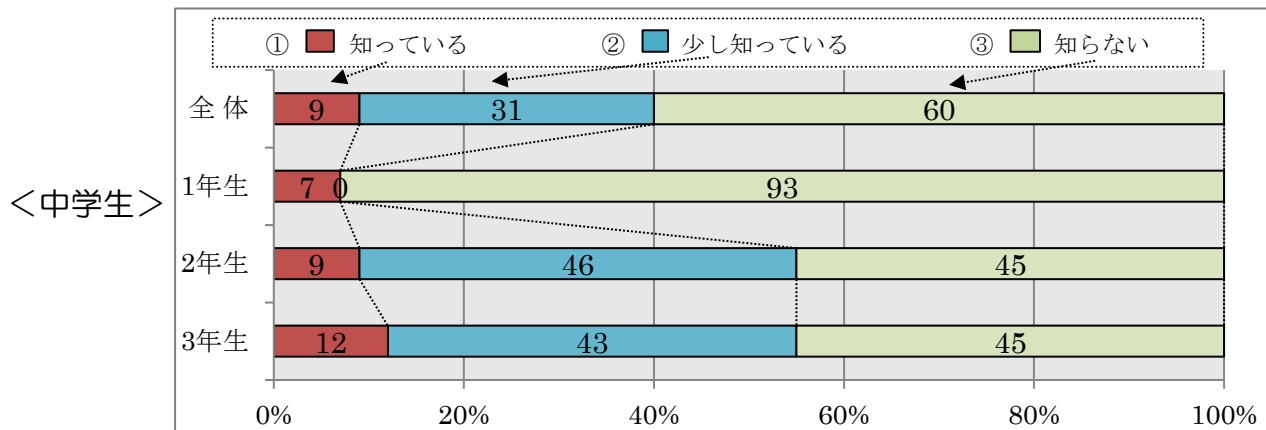
回 答 者 数

1. 中 学 生	回答者数 <u>153人</u> / 在籍者数	160人
2. 高 校 生	回答者数 <u>154人</u> / 在籍者数	158人
3. 中・高教職員	回答者数 <u>48人</u> / 全教職員数	56人
4. 小学校保護者	回答者数 <u>140人</u> / 対象児童数	156人
5. 中学校保護者	回答者数 <u>148人</u> / 生徒総数	160人
6. 地 域	回答者数 <u>61人</u> / 質問者数	103人

1. 「油木高校魅力化+プロジェクト」に係る 直接的設問 について

< 「油木高校魅力化+プロジェクト」の認知度・期待感について >

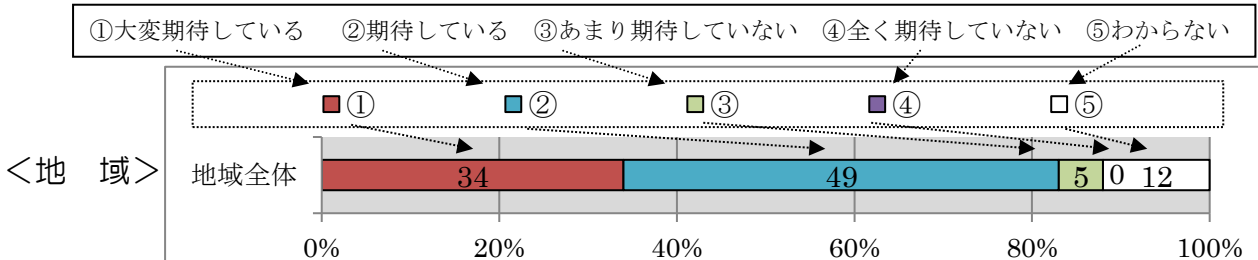
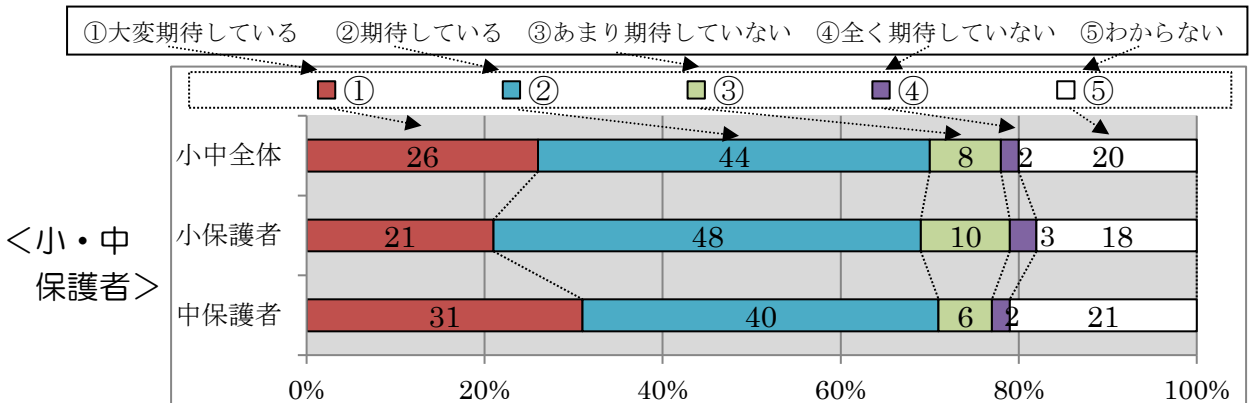
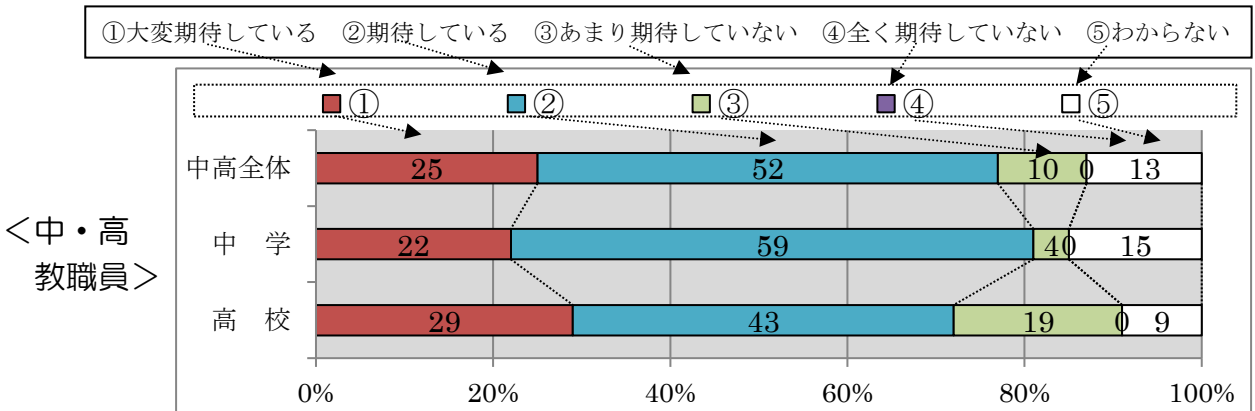
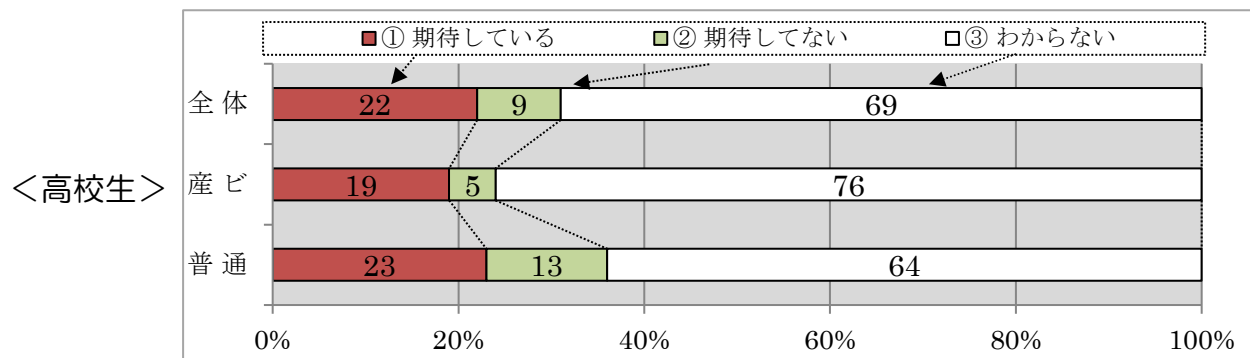
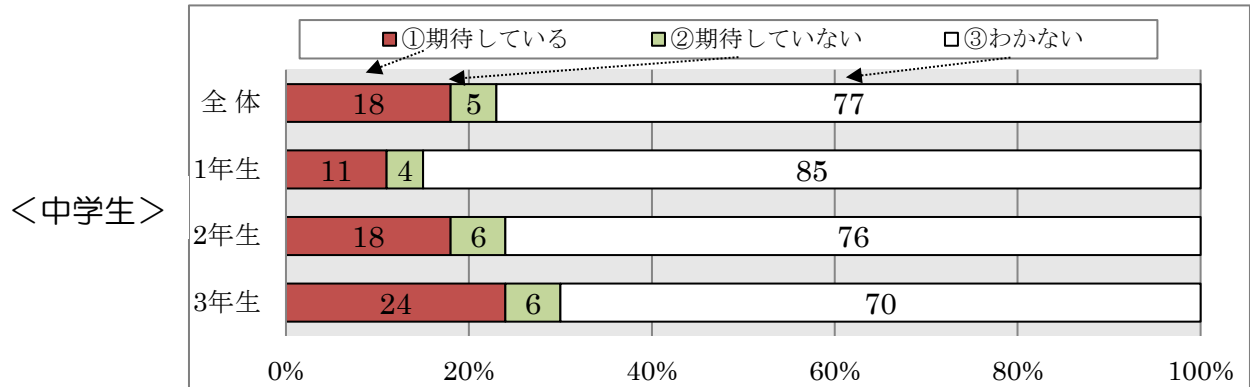
問 (1) 神石高原町では油木高校のさらなる魅力づくりを創出するために、「油木高校魅力化+(プラス)プロジェクト」に取り組んでおり、その具体策(「総合的な探究の時間」の学習内容と指導法の開発、放課後「神ゼミ」など)を実施していますが、その「油木高校魅力化+プロジェクト」のことを知っていますか。



考察 ・ 認知度は前年と比較してほぼ同程度(中学校 33%→40%、高校 65%→66%、教職員 56%→52%、地域 59%→54%)で、その中で高校生(66%)が最も高い数値であった。

・ 油木高校ホームページが刷新され、各種情報や写真が随時更新されている。「高校魅力化+プロジェクト」のコーナーも閲覧しやすくなったが、一層情報発信に努めてもらいたい。また、油木高校の「総合的な探究の時間」の取組状況を「見える化」できないか検討してきたが、色々な課題(人・時間・経費・共通理解)があり、今後も継続検討していく必要がある。

問 (2) 「油木高校魅力化+(ﾌﾟﾗﾝ)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」に期待感をもっていますか。



考察 ・「大変期待している・期待している」の肯定的回答としては、地域の83%（昨年76%）が最も高く、中高教職員の77%（昨年82%）、小中保護者の70%（昨年71%）で非常に高い肯定的評価で期待度が伺える。

・**反対**に「期待していない・あまり期待していない」の否定的回答で多いのは、高校教職員、小中保護者の10%、高校生9%で、直接的に関わっている者の評価が低いのは大きな課題であり検討する必要がある。

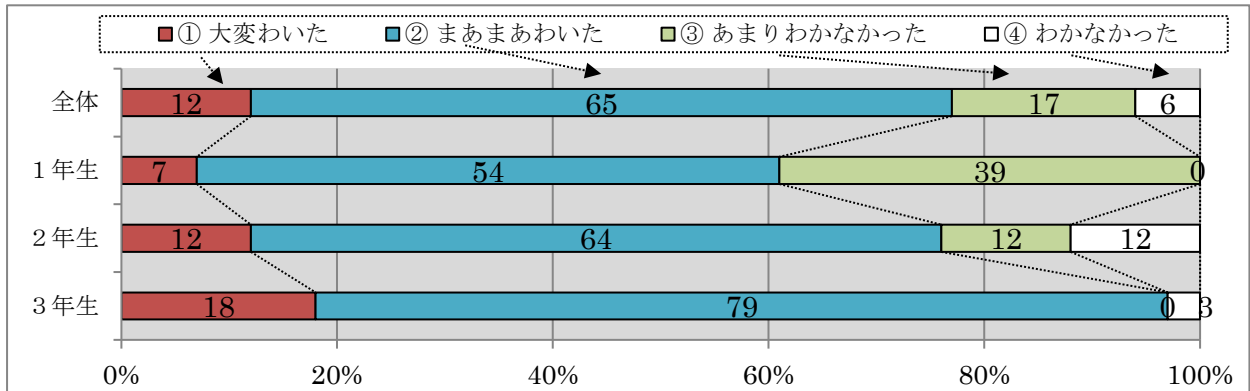
・「わからない」とする者が、中学生、高校生に非常に多く、60%～80%以上が「わからない」と回答しており、まだまだ情報提供が不足している。このことも今後の課題として取り組んでいく必要がある。

<油木高校「総合的な探究の時間」に係ることについて>

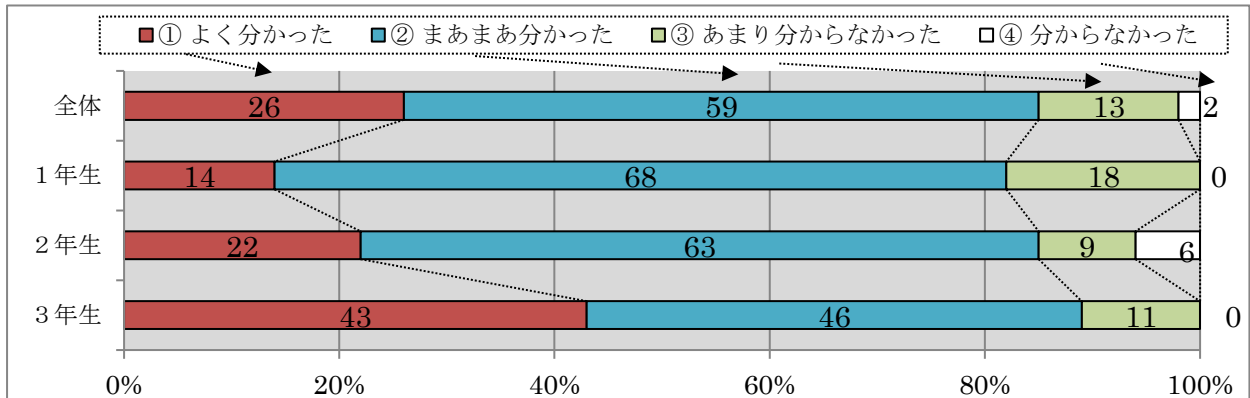
<高校生> 普通科 全学年に本年度の「総合的な探究の時間」のことについて質問します。

* 普通科生の1～3年生のみ答えてください。

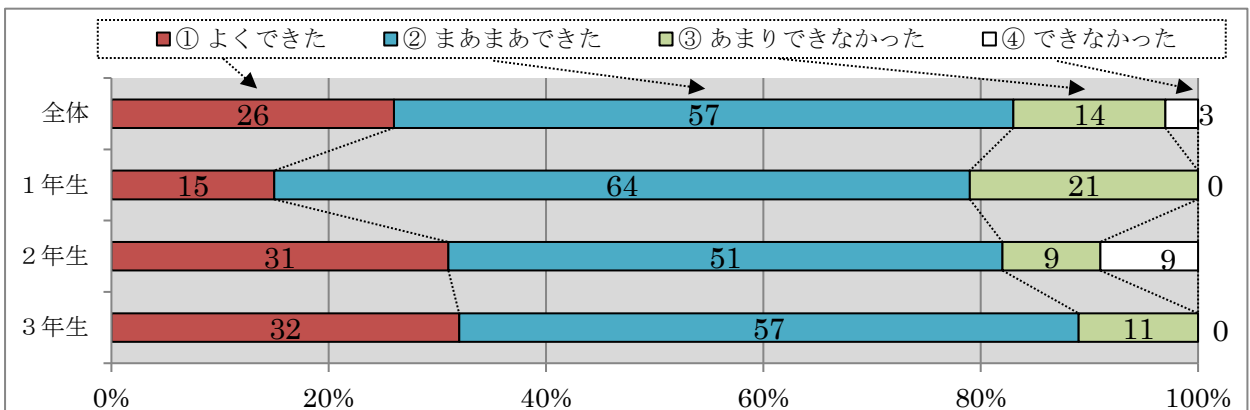
問（1） 学習内容について興味や学習意欲がわきましたか。（興味・関心・意欲）



問（2） 授業内容は分かりましたか。（理解度）



問（3） 授業では積極的に学習活動ができましたか。（態度・活動面）



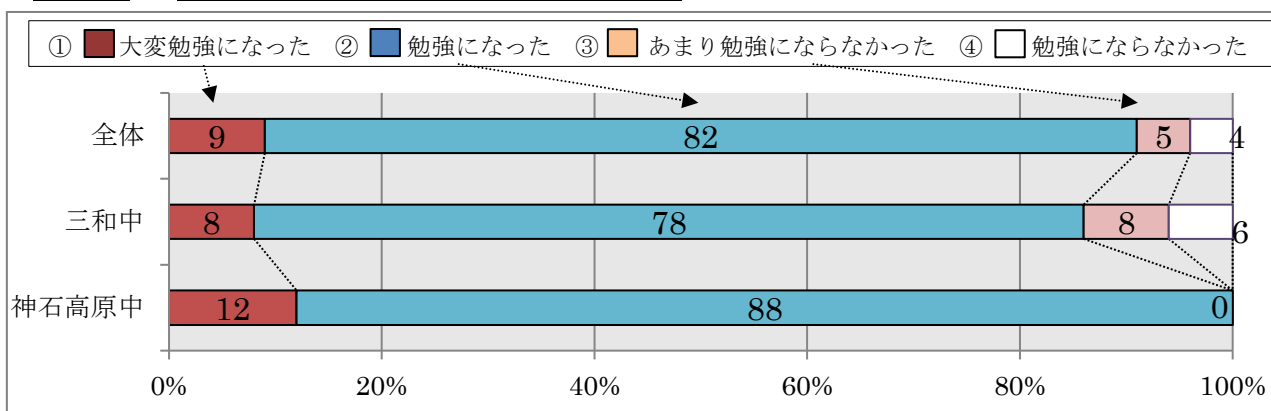
考察 ・どの項目も70%以上の高い肯定的自己評価をしている。そして、3年生がどの項目も「よくできた」と回答した生徒が一番多かった。

・このように生徒自身が高い評価をしているのは、各学年の総合担当の先生やキャリア教育コーディネーターのこれまでの経験値からの指導や(株)プリマペンギノの適切なアドバイスのお陰であると感じている。

<油木高校の学習成果発表会についてどう思いましたか？>

<中学生>

問 本年度12月20日に油木高校が実施された「総合的な探究の時間」等の学習成果発表会(主に高校3年生)に参加した生徒で、高校生の発表を聞いてどのように感じましたか。



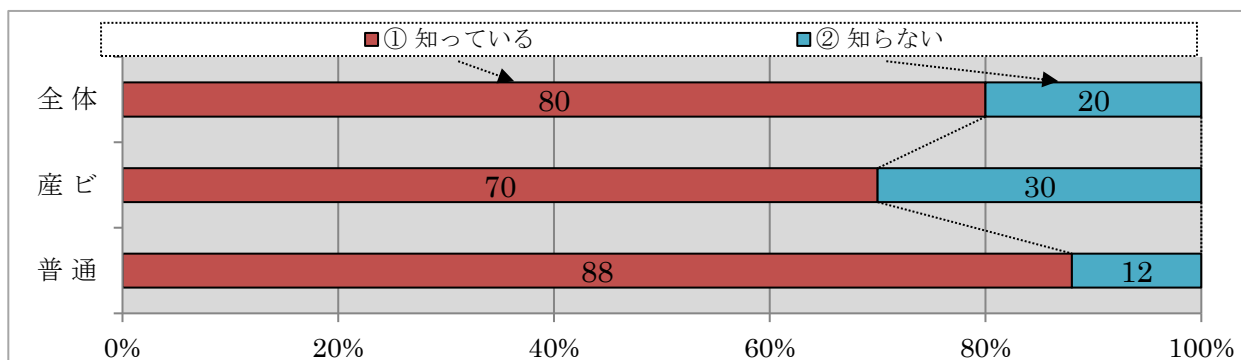
考察 ・ほとんどの生徒が「大変勉強になった・勉強になった」との肯定的評価(91%)をしているが、「大変勉強になった」率は9%(昨年26%)であり、大きく減少した。

・参加した中学生にとっては、今後の学習に役立つものと思われる。また、油木高校の普通科、産業ビジネス科の学習内容について、少しは理解が進んだのではないかとと思われる。

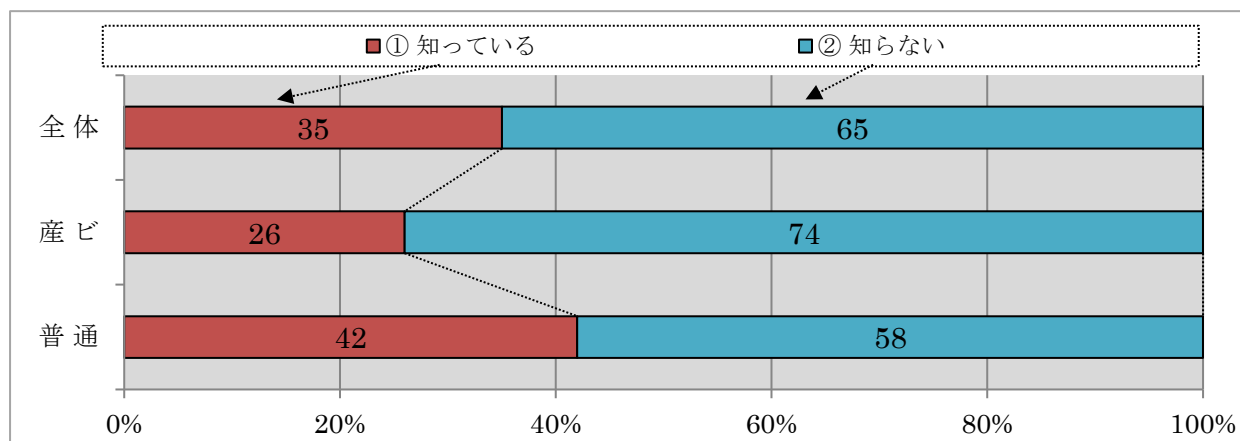
・「総合的な学習(探究)の時間」は中高連携教育の軸であり、小学校を含めた小・中・高が共に研究しながら、今後一層中身の充実を図っていく必要があるため、町研総合部会では、昨年度から小・中・高の12年間を視野に入れたカリキュラム作りについて(株)プリマペンギノに指導いただきながら研修を継続している。

<放課後「神ゼミ」について>

<高校生> **問** (1) 放課後「神ゼミ」が実施されていることを知っていますか。



問(2) 放課後「神ゼミ」では、どんなことをしているか知っていますか。



問(3) 本年度、放課後「神ゼミ」を受講したことがありますか。 ※()内は昨年度の人数

	産業ビジネス科	普通科	総計
	(受講したことがある)	(受講したことがある)	(受講したことがある)
1年生	2人 (0人)	2人 (1人)	4人 (1人)
2年生	0人 (3人)	3人 (4人)	3人 (7人)
3年生	4人 (6人)	7人 (1人)	11人 (7人)
計	6人 (9人)	12人 (6人)	18人 (15人)

問(4) 放課後「神ゼミ」を受講した人は、どんな感想をもちましたか。

	① 大変勉強になる		② 勉強になる		③ あまり勉強にならない		④ 勉強にならない	
	産ビ	普通	産ビ	普通	産ビ	普通	産ビ	普通
1年生	0	0	2	2	1	0	0	1
2年生	1	0	0	4	4	0	1	0
3年生	2	0	4	5	0	2	1	1
計	3人	0人	6人	11人	5人	2人	2人	2人

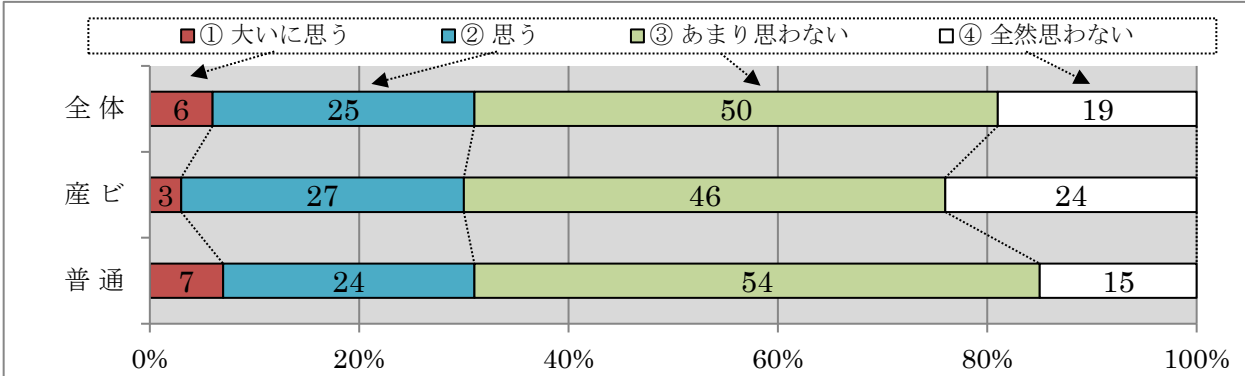
考察 ・放課後「神ゼミ」の知名度は向上しているようであるが、どのような活動をしているのか内容の理解がまだ少ない(26%→35%)。このような状況の中で、指導者は生徒に色々な声掛けなり仕掛けをしながら取り組まれているようである。取組の様子は「神ゼミにゆうず」等に掲載されている。

・しかし、受講者が少ないだけに、今後も粘り強く増える取組や作戦を考えていく必要がある。そして、今後も研鑽を積みながら、実績の見える化(外部の発表大会等での入賞)を図っていく必要がある。

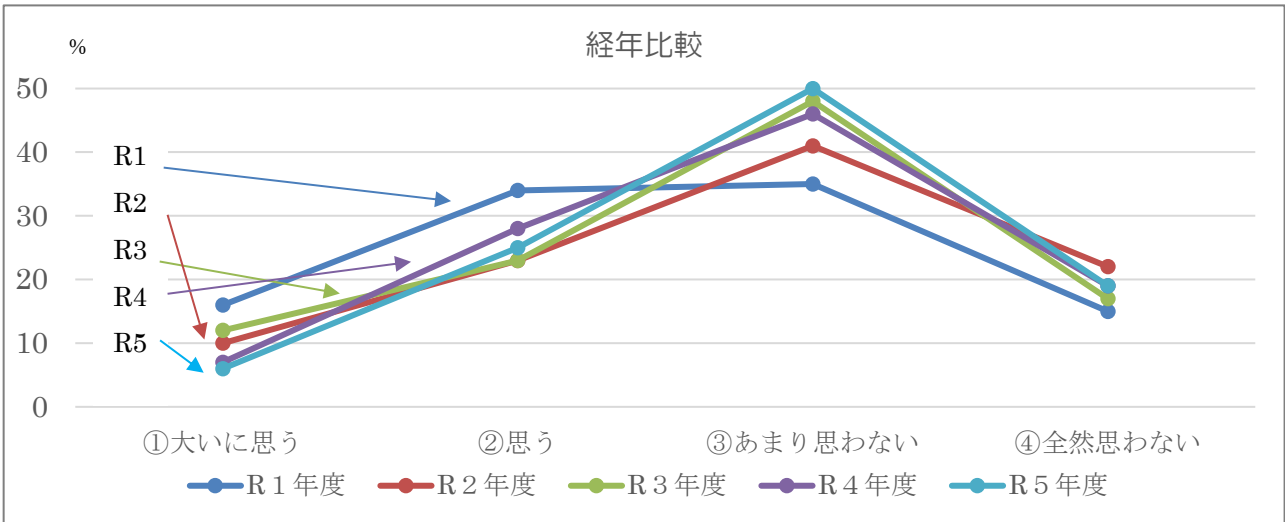
・放課後「神ゼミ」は、「油木高校魅力化+αプロジェクト」の目玉でもあるので、より多くの生徒が受講し、中身も充実したものになるよう、実績のある(株)プリマペンギノの指導や支援を今後もお願いしていきたい。

<「総合的な探究の時間」で「地域」をテーマに学習しての効用はどうか？>

<高校生> 問 (1) あなたは、将来、神石高原町に住んでみたいと思いますか。(＊ 町外生徒 56名 36%)



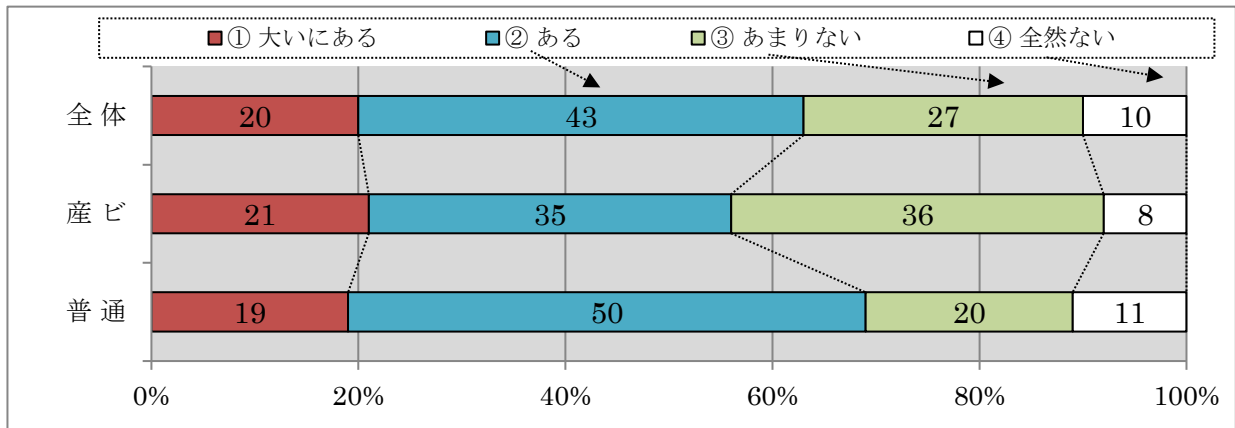
	普通科 (人)				産業ビジネス科 (人)				全 体
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
① 大いに思う	3	1	2	6 (7%)	2	0	0	2 (3%)	8 (6%)
② 思う	6	7	8	21 (24%)	7	3	6	16 (27%)	37 (25%)
③ あまり思わない	13	18	15	46 (54%)	11	8	8	27 (46%)	73 (50%)
④ 全然思わない	6	4	3	13 (15%)	5	6	3	14 (24%)	27 (19%)
小 計	28	30	28	86	25	17	17	59	145



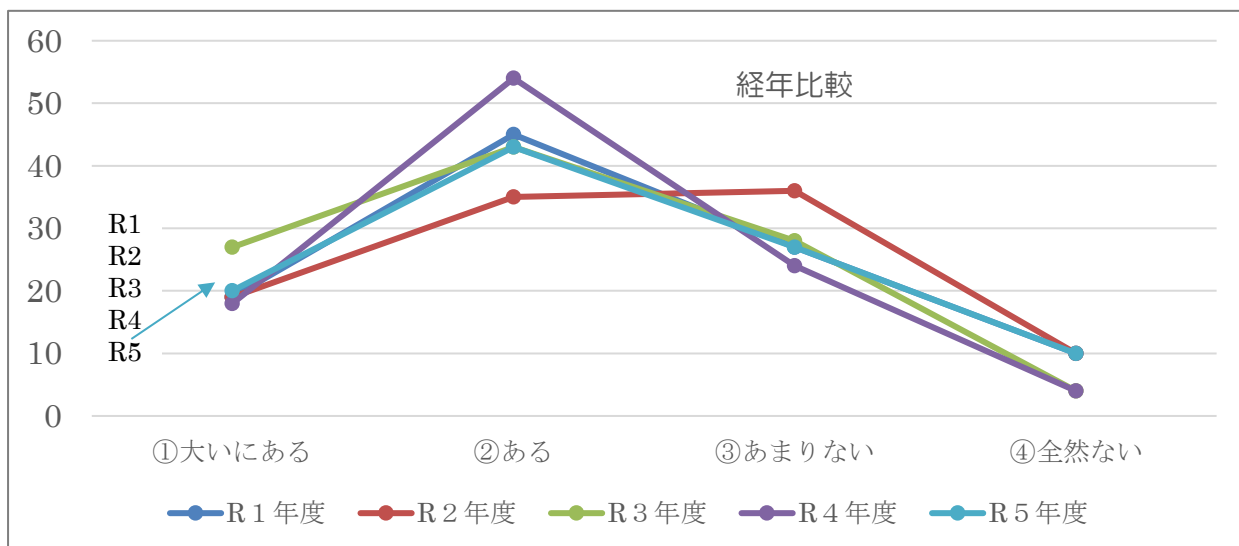
考察 ・全体では、①「大いに思う」が6%（昨年7%）と約1割に満たない。人数では8人（昨年10人）である。そして、「思う」は25%（昨年28%）で、肯定的回答は約3割である。一方、「あまり思わない・全然思わない」の否定的回答は69%で、約7割を占めている。この数値は前年と比較し悪化傾向にある。

・学科別においても、「大いに思う・思う」は両科ともほぼ同率であるが、否定的回答の「全然思わない」（普：15%、産ビ：24%）と大きく違うのは、産ビ科生の約6割が町外生であることが影響していると考えられる。

<高校生> 問 (2) あなたは、自分の地元貢献したいという気持ちがありますか。



	産業ビジネス科 (人)				普通科 (人)				総計
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
① 大いに	5 19%	3 18%	5 29%	13 (21%)	4 15%	4 13%	8 29%	16 (19%)	29 (20%)
② ある	8 30%	4 23%	9 53%	21 (35%)	11 41%	18 58%	14 50%	43 (50%)	64 (43%)
③ あまりない	12 44%	7 41%	3 18%	22 (36%)	6 22%	7 23%	4 14%	17 (20%)	39 (27%)
⑤ 全然ない	2 7%	3 18%	0 0%	5 (8%)	6 22%	2 6%	2 7%	10 (11%)	15 (10%)
小計	27	17	17	61	27	31	28	86	147



考察 ・全体では、地域貢献意欲が「大いにある」と回答した生徒が20%（昨年18%）で、「ある」を含めた肯定的回答は63%（昨年72%、一昨年69%）で約2/3と、増減を繰り返している。

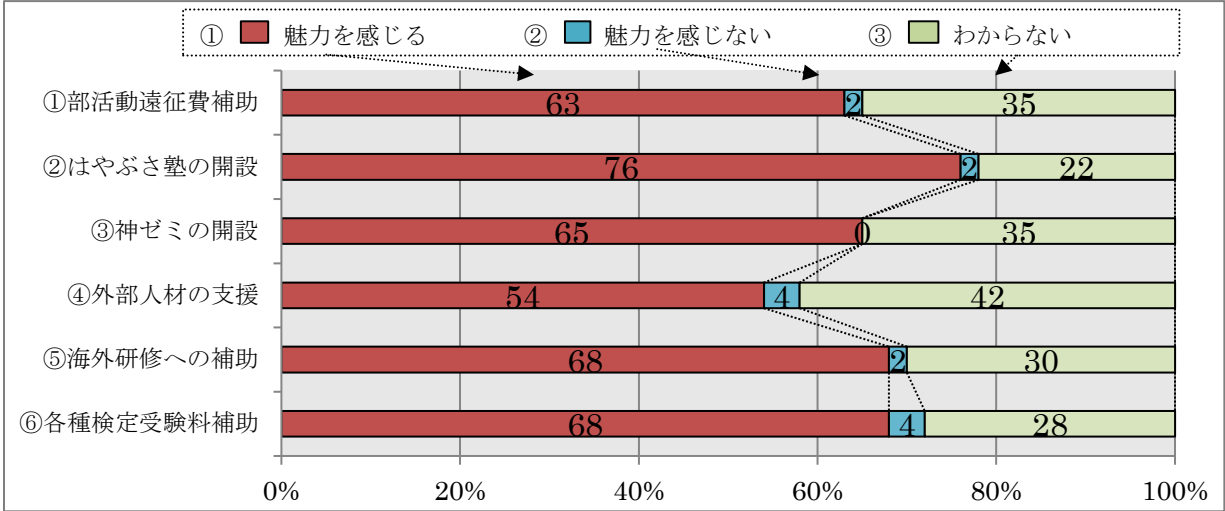
- ・ 学科別では、地域貢献意欲が「ある・なし」の割合では、やや普通科の肯定的回答率が高い。
- ・ 学科別&学年別では、肯定的回答が70%以上は、産ビ科1クラス、普通科2クラスであった。

2. 油木高校魅力アップに係る 町の支援 について

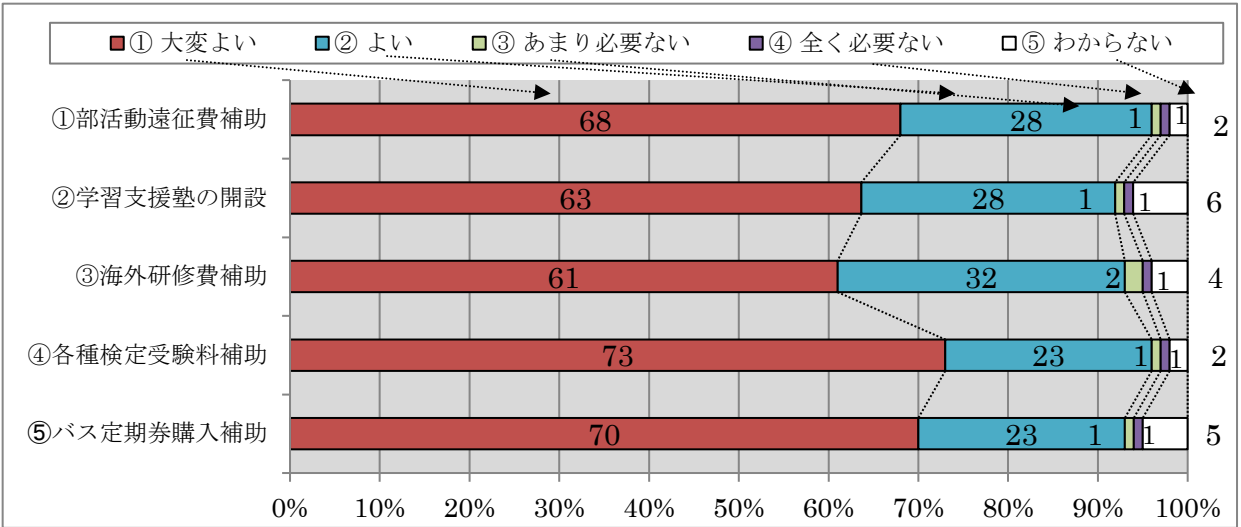
＜「町の支援」についてどう思いますか？＞

問 本町が油木高校生に様々な教育支援を実施していますが、それらについてどう思いますか。

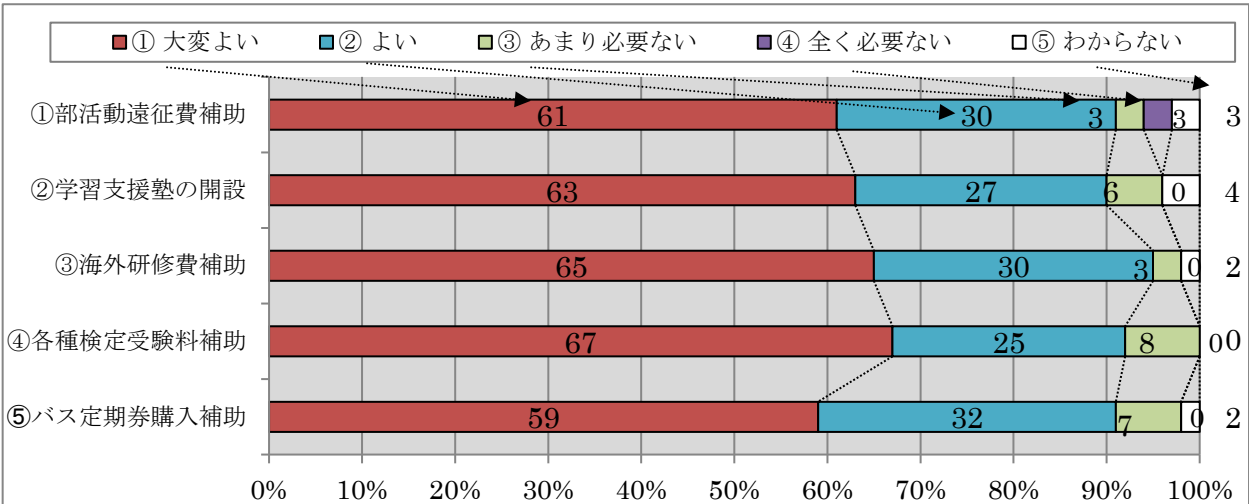
＜中学生＞ 下グラフは、内容をよく知っている中学3年生のもの



＜小・中保護者＞



＜地域＞



考察・中学3年生&保護者対象に毎年「油木高校生へ町からの支援」について説明させていただいており、本年度もほとんどの項目において「大変よい・よい」の肯定的回答が60%以上と高い評価を受けている。

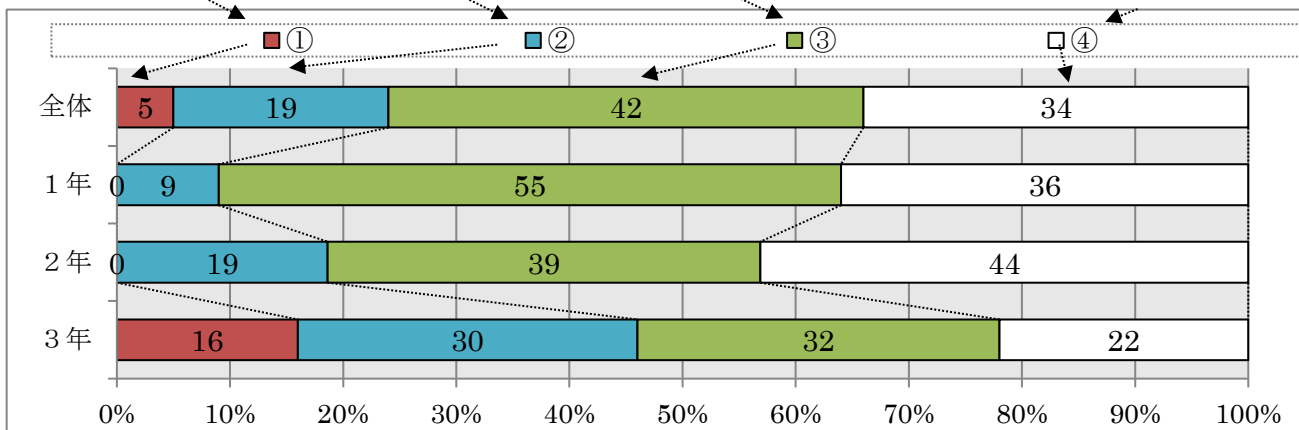
- ・ 小・中保護者においても、全項目とも「大変良い・よい」の肯定的回答が90%以上と非常に高い評価である。
- ・ 地域においても、保護者同様に全項目ともに肯定的回答が90%以上と非常に高い評価である。
- ・ このように多くの項目において地域、保護者の期待度の高いことがわかる。油木高校への進路選択の理由に「町の補助がある」項を上げておられる保護者も多い。(18 ページ参照) それだけに、今後とも支援制度の維持や中身の充実を図りながら、更なる油木高校の魅力づくりに繋げていく必要がある。

<高校生>

問 本町では、油木高校の教育充実のために色々な支援を行っていますが、そのことについて次の質問に教えてください。

(1) 本町では本年度「油木高校生への8つの支援」を実施していますが、その内容について知っていますか。

① 6以上は知っている ② 4～5は知っている ③ 2～3ぐらいは知っている ④ ほとんど知らない

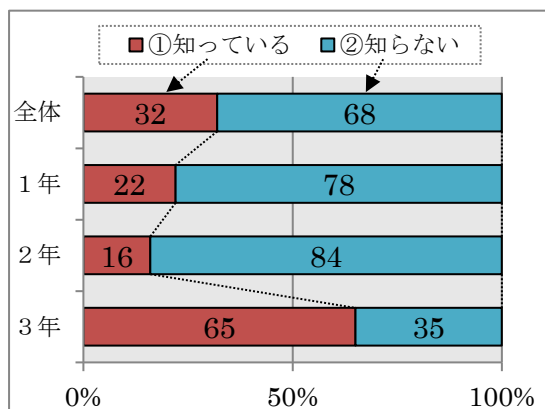


考察 「6以上は知っている」が全体で5%（昨年3%）と認知度が非常に低い。中でも「ほとんど知らない」が34%（昨年34%）で、毎年度新しいリーフレットを生徒並びに教職員へ配布しお知らせしているが、今後一層の周知活動に努めながら、油木高校の魅力をアピールしていく必要がある。 なお、学校におかれても機会を捉えて生徒や保護者の方に紹介をお願いしたいと考えている。

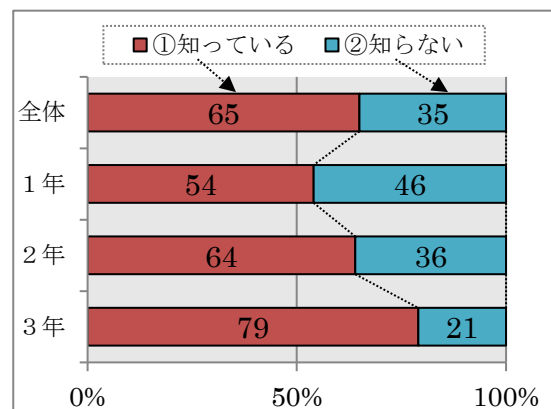
<「はやぶさ塾」について>

(2) Q1 「はやぶさ塾」では、どんな方法で何の学習をしているのか知っていますか。

<産業ビジネス科>



<普通科>



Q2 本年度、「はやぶさ塾」に参加した人だけ教えてください。→ あなたの受講状況を教えてください。

	前期・後期とも受講				前期だけ受講				後期だけ受講			
	1年	2年	3年	計(人)	1年	2年	3年	計(人)	1年	2年	3年	計(人)
産 び 科	0	1	1	2	0	1	1	2	0	0	0	0
普 通 科	4	5	0	9	0	0	3	3	0	0	0	0
計	4	6	1	11	0	1	4	5	0	0	0	0

Q3 「はやぶさ塾」に参加した人だけ教えてください → 参加してみたの感想はいかがですか。



① 大満足 ② 満足 ③ 普通 ④ やや不満 ⑤ 不満

	普通科 (1・2・3年)	産 び 科 (1・2・3年)	計 (%)	理 由
①	1人 (0・0・1人)	3人 (1・0・2人)	4人 (13%)	
②	9人 (4・3・2人)	1人 (0・1・0人)	10人 (31%)	(普・自分のペースに合わせて進むので取り組みやすかった ・丁寧に分からないところを教えてください)
③	13人 (1・7・5人)	2人 (0・1・1人)	15人 (47%)	(普)・家でやっても同じだから
④	3人 (0・0・3人)	0人 (0・0・0人)	3人 (9%)	(普)・自分のやりたい分野を勉強できるのは良いが、ただプリントをやるだけで教えてもらえない・希望した学習をさせてもらえなかった
⑤	0人 (0・0・0人)	0人 (0・0・0人)	0人 (0%)	

考察 ・はやぶさ塾での指導方法や内容に係る周知度は学科によってかなりの差があるが、年度初めの1年生オリエンテーションで塾長さんの方から中身についての説明をいただいたり、町内中学3年生は全員体験塾を自校で実施しているので、普通科1・2年生の周知度は高い。

・4年前から指導教科や時間帯を増やしているが、受講者数は16名(昨年:26名)で、そのうち通年者は11名(昨年:9名)と、減少している部分もあり、改善策を塾側や学校と協議しながら取組んでいく。

・7月～3月までは、前半(16:00～18:00)・後半(18:30～20:30)の2部制で実施しているが、両方(4時間)とも受講している生徒は、極まれで(月平均1～2人)であるが、バス通学生にとっては好評のようである。

・受講者の評価としては、「大満足・満足」との肯定的評価は44%(昨年:22%)と評価は昨年よりも高くなった。やはり受講者が満足感をもって、できるだけ多くの生徒が受講するよう、塾側や学校と十分検討した上で、今後の取組を進めていきたい。

※1、2年生のみ答えてください。

Q4 来年度、「はやぶさ塾」に参加しますか。

① 参加したい ② 参加したくない ③ わからない

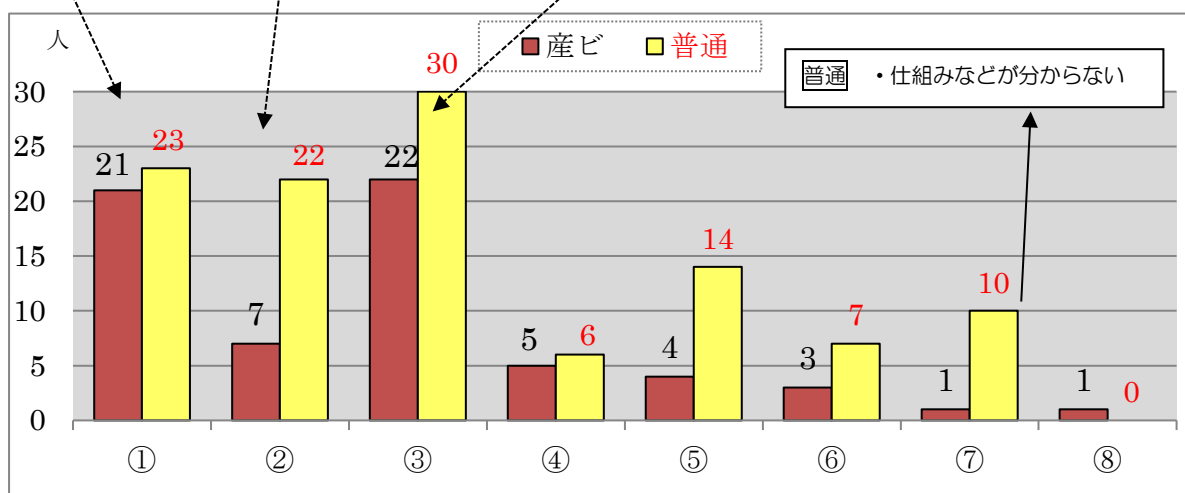
	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 参加したい	4人	3人	7人 (12%)	0人	1人	1人 (2%)	8人 (8%)
② 参加したくない	5人	11人	16人 (27%)	6人	10人	16人 (39%)	32人 (32%)
③ わからない	19人	18人	37人 (61%)	17人	7人	24人 (59%)	61人 (60%)

考察 現時点での「受講希望者」は、8人（昨年：6人）とかなり少ない。しかし、4月から学校側の協力もいただきながら実施されるので、その推移を見ていく必要がある。指導者2人態勢により、それを有効に活用したコース制（フリーコース、4大コース）を行っていく。

※ 「はやぶさ塾」に参加していない人だけ答えてください。

Q5 「はやぶさ塾」に参加していない理由は何ですか。下の①～⑧の中で当てはまるものをすべて選んでください

- ① 必要性を感じない ② 部活動の後は学習意欲がわかない ③ 20時30分終了だと帰宅手段（バス・迎え）がない ④ 塾の勉強の仕方が自分に合わない ⑤ 自分一人で勉強したい ⑥ 塾に行く時間がない
⑦ 受講料が高い（半期：1万円） ⑧ その他



考察 ・産ビ科・普通科共に「参加していない理由」の多くは、①「必要性を感じない」、②「部活動の後は学習意欲がわかない」、③「帰宅手段がない」、⑤「自分一人で勉強したい」、といったもので、例年と変わりない。

<各種検定受験料の補助について>

(3) 本町では油木高校生に対して各種検定受験料の補助（合格者のみ）をしていますが、本年度（但し、令和5年2月～令和6年1月の期間）、これらの制度を利用したことがありますか。

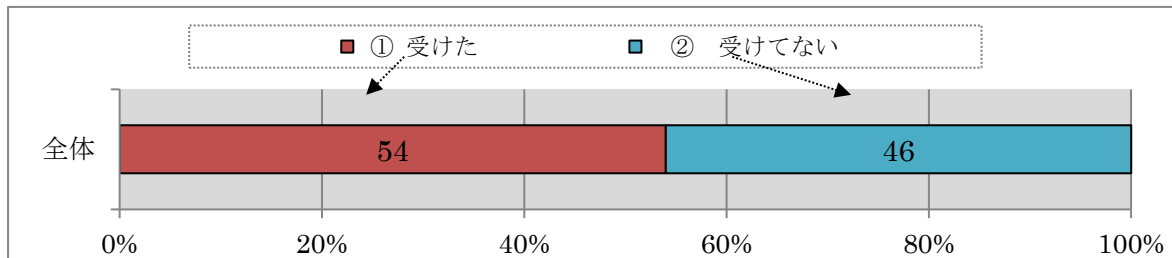
	普通科				産業ビジネス科				総計 (人)
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
英語検定	9	6	8	23	0	1	2	3	26
漢字検定	3	6	8	17	0	2	2	4	21
数学検定	1	0	0	1	0	0	2	2	3
小型車両系建設機械（整地等） 小型フォークリフト特別教育講座	0	0	0	0	0	7	10	17	17

考察 ・科ごとに利用者数の違いはあるが、本年度も両学科共に英検・漢検・小型車両系建設機械・小型フォークリフト特別講習の利用者があった。しかし、数学検定の利用者は両学科ともに少数であった。

<町外生徒のバス定期券購入補助について>

(4) 町外からバス通学している生徒で、本年度「定期券購入費の50%補助」を受けましたか。

(本年度の町外生徒は 56名 → 内30名が受けている)



<本年度入寮者の概要>

* () 内数は町内生徒数

学年	男子 (最大収容人数: 31人)			女子 (最大収容人数: 12人)		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
人数	9人(0)	9人(0)	4人(0)	1人(1)	4人(1)	0人(0)
計	22人(0)			5人(1)		

考察 ・補助利用者は30人(54%)で、利用していない町外生は26人(46%)である。非利用者の多くは寮生（寮の町外人数：男子22人、女子3人）のようであり、寮生を除いた利用率は約97%で、かなり高い利用率である。この制度は町外の関係者から歓迎されており、油木高校の大きな魅力の一つではある。ただ、R5年4月からバス運賃が値上がりしたため、小・中学校保護者アンケートの回答の中に、運賃助成の継続を要望される方が数名あった。

<長期・短期の海外研修について>

(5) 次の質問については、1、2年生のみ答えてください。

Q1 来年度、オーストラリア海外研修への参加希望がありますか。

① 希望あり ② 希望なし ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2) (%)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 希望あり	7人	7人	14人 (23%)	3人	2人	5人 (10%)	19人 (17%)
② 希望なし	11人	7人	18人 (30%)	13人	17人	30人 (59%)	48人 (43%)
③ わからない	10人	19人	29人 (47%)	11人	5人	16人 (31%)	45人 (40%)

Q2 「希望あり」と答えた生徒で、第一希望の研修期間はどちらですか。

① 短期 (2週間) ② 長期 (10週間)

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+②	③ 1年生	④ 2年生	③+④	
① 短 期	4人	5人	9人	2人	0人	2人	11人
② 長 期	3人	1人	4人	1人	0人	1人	5人

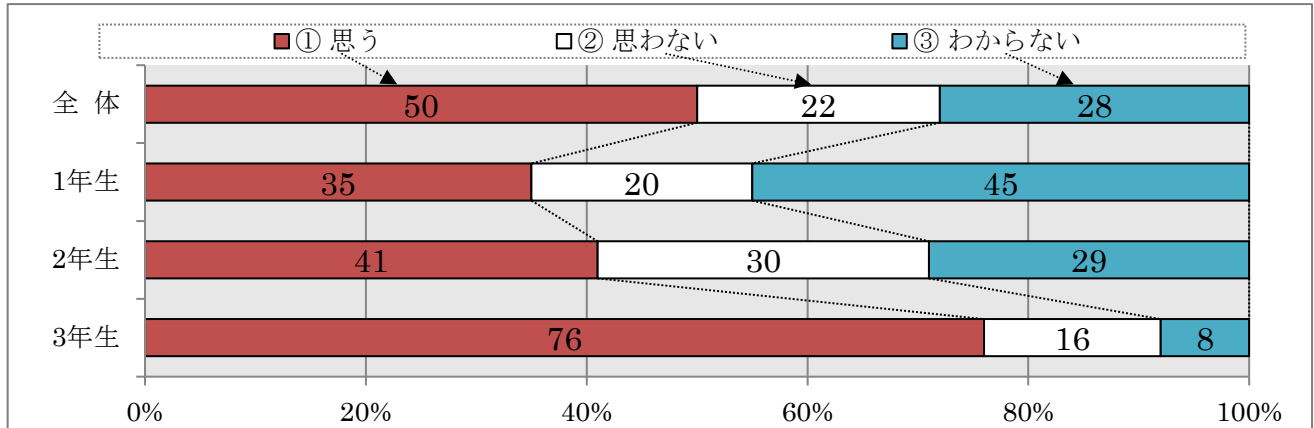
考察 ・現段階で「参加希望有り」と回答した生徒は、19名 (昨年13名)で、その中で短期が11名、長期が5名と回答している。いずれにせよ、定員数をオーバーしており、今後増える可能性がある。
 ただ、コロナの影響で3年間実施できなかったが、令和5年度に再開。今後は制度拡充の方向で検討していきたいと考えている。

3. 油木高校魅力アップ事業に係る総合的な成果指標 について

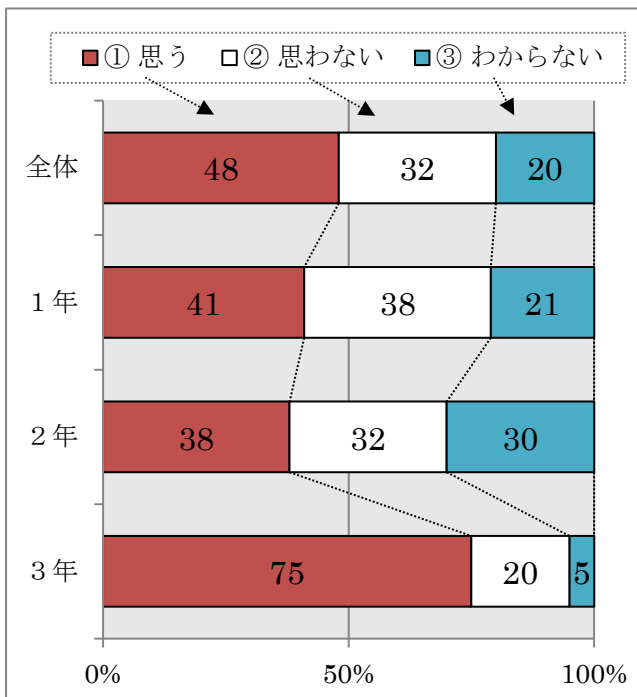
<中学生>

問 (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。

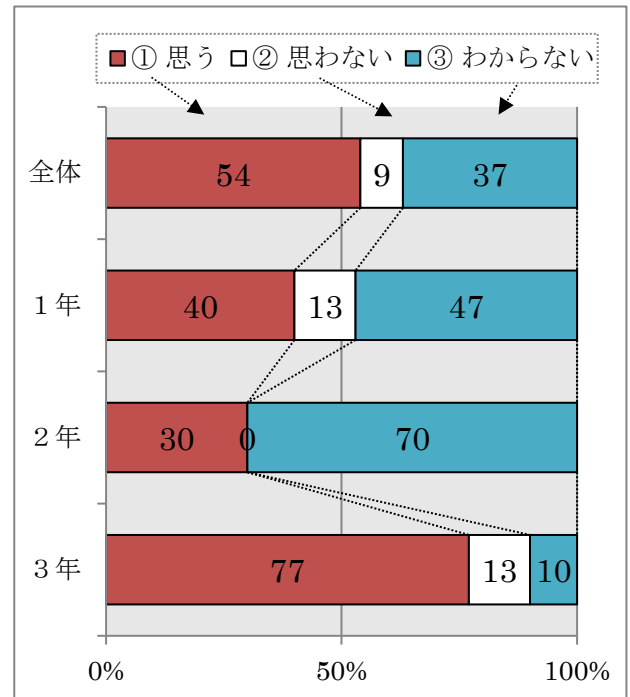
< 2校全体では >



<三和中>



<神石高原中>



考察 ・2校全体では、油木高校へ進学したいと「思う」は50%（前年53%、前々年55%）で、昨年に引き続き50%以上であるが減少傾向にある。今後中学生徒数が減少傾向にあるだけに50%以上を確保していく必要がある。

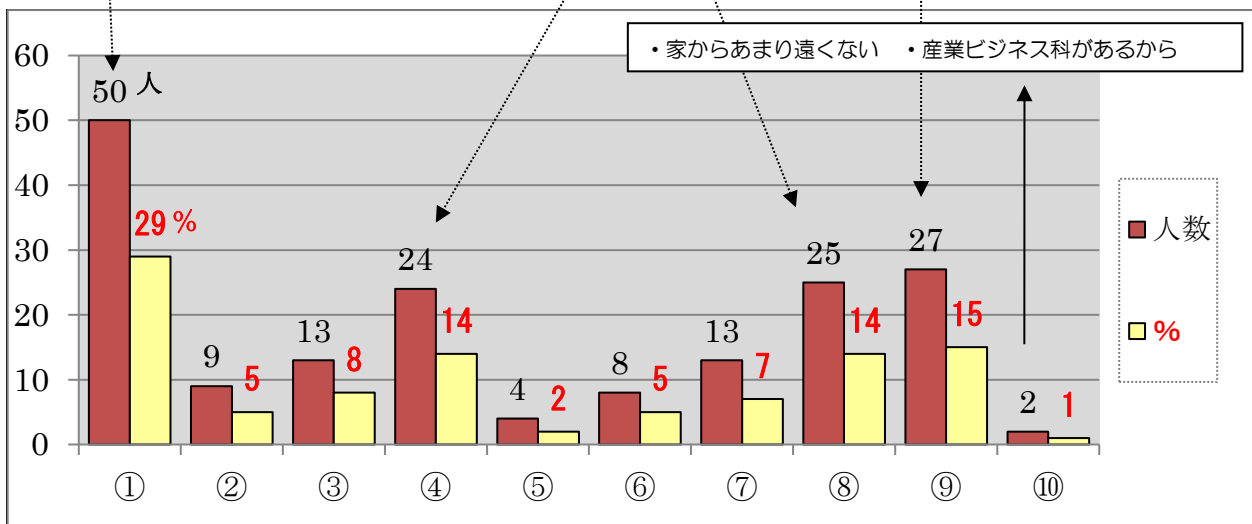
・全体の学年別でも、3年生の「思う」が76%で一番高く（R4年62%、R3年66%、R2年61%、R1年61%）、一つの目標数値である60%以上クリアが続いている。また、経年比較でみると（昨年度の2年生53%→本年度の3年生76%）というように年々増加傾向になっている。これは、学校現場の取組と地域あげでの取組の成果なり効果が伺われる。

・学校別においても、両校とも「油木高校に進学したいと思う」率は3年生が一番高く70%以上を占めている。このことは、連携型中高一貫教育校として維持していく為には大変重要なことで、今後もこの数値（50%以上）にこだわり推進していく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「①(油木高校へ進学したいと)思う」と答えた人で、その理由と思うものを下の□の中から選んでください。(複数回答可)

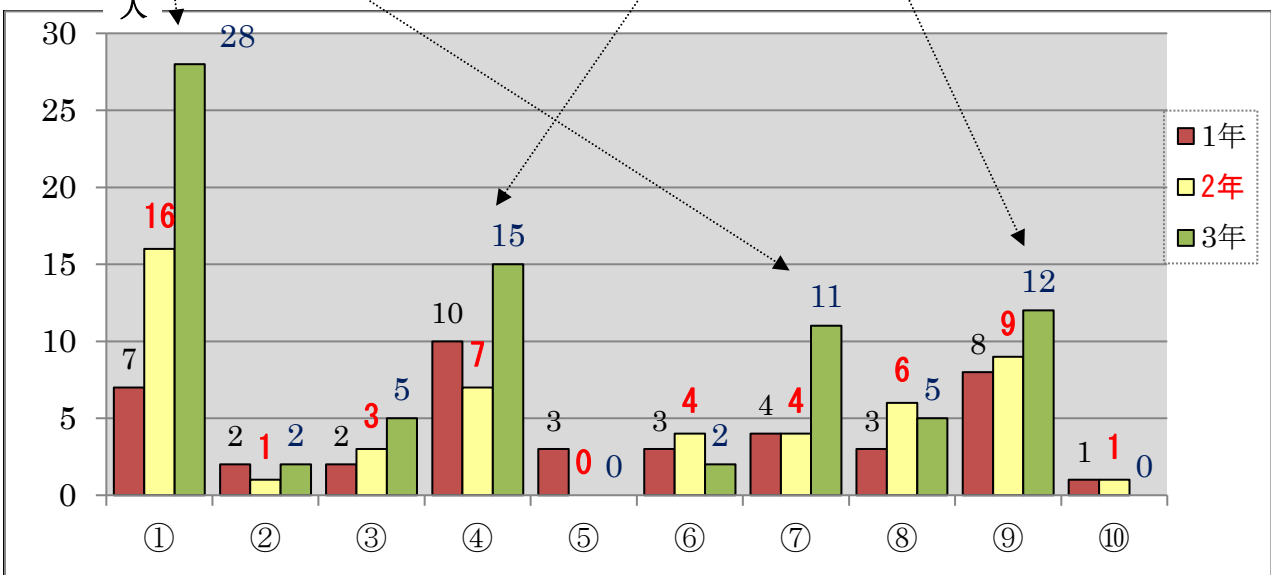
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある ⑥ 施設設備がよい
 ⑦ 町の支援(公営塾、海外研修等)がある ⑧ 親・家族の等の薦め ⑨ 友人関係 ⑩ その他

< 2校全体では >



< 学年別の人数では >

- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある ⑥ 施設設備がよい
 ⑦ 町の支援(公営塾、海外研修等)がある ⑧ 親・家族の薦め ⑨ 友人関係 ⑩ その他



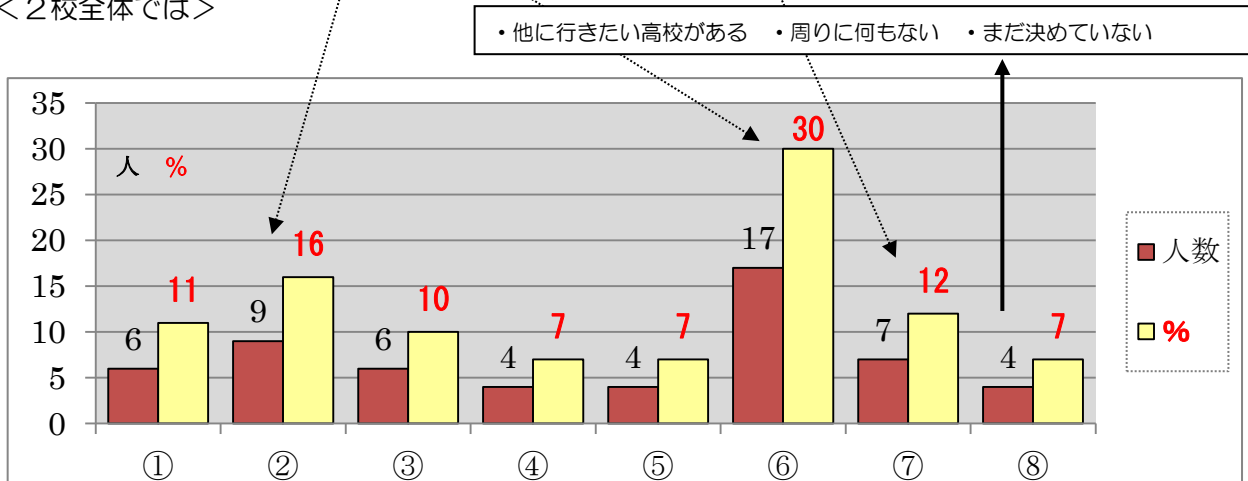
考察 ・2校全体で多い順は、1位：①通学(29%)、2位：⑨友人関係(19%)、3位：④クラブ活動(14%)、⑧親・家族等の薦め(14%)であった。

・学年別では、①通学に便利、を除けば、④クラブ活動、⑨友人関係、⑦町の支援について3年生が油木高校の良さを多く感じているようである。これは、3年生が体験入学や学校説明会などを通して、多方面にわたって情報を得ることによって油木高校の良さを感じているものと思われる。

(3) 3(1)の質問で「②(油木高校へ進学したいと) 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを下の□の中から選んでください。(複数回答可)

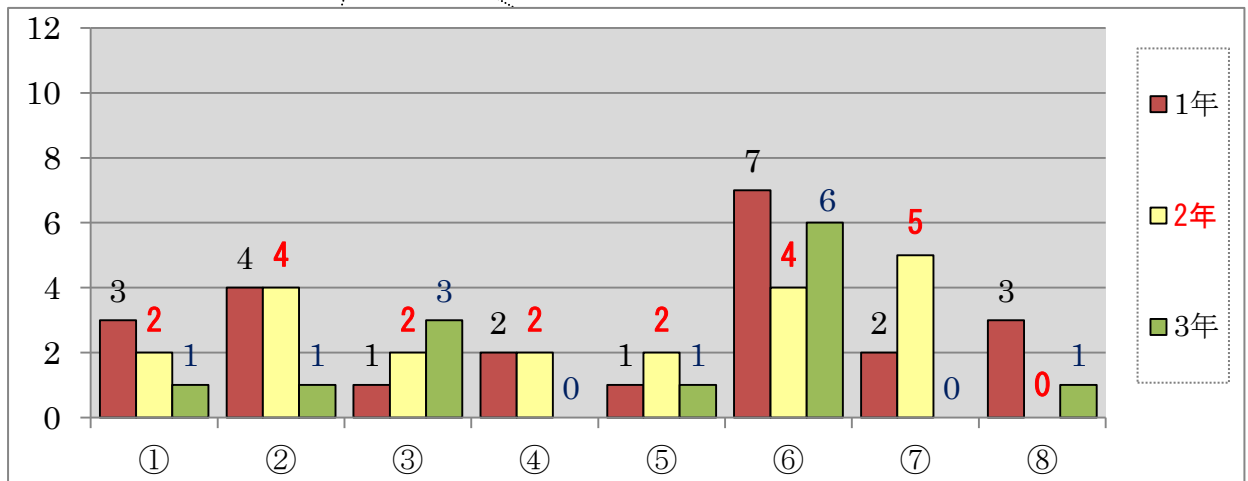
- | | | | |
|------------|-----------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面 | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<2校全体では>



<学年別の人数では>

- | | | | |
|------------|-----------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面 | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |



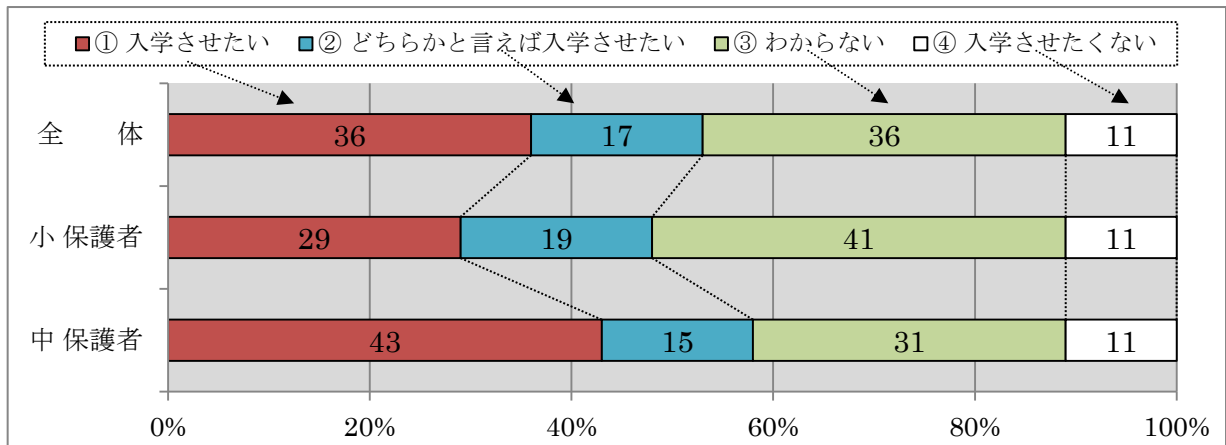
考察 ・2校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面」(30%)、2位：②「教育内容面」(16%) 3位：⑦「友人関係」(12%)、(昨年3位は③クラブ活動面)となっており、例年とあまり差異はない。

・例年のごとく本年度も「(油木高校へ進学したいと) 思わない」理由の中で、⑥「高卒後の進路面」が一番多い。それだけに町内中学校での進路説明会時等に「油木高校卒業後の進路面」について、もっと丁寧に詳細な説明を行っていく必要があると思われる。また、「油木高校の進路指導や進路実績」を学校ホームページ等でしっかりと紹介していくことも必要である。

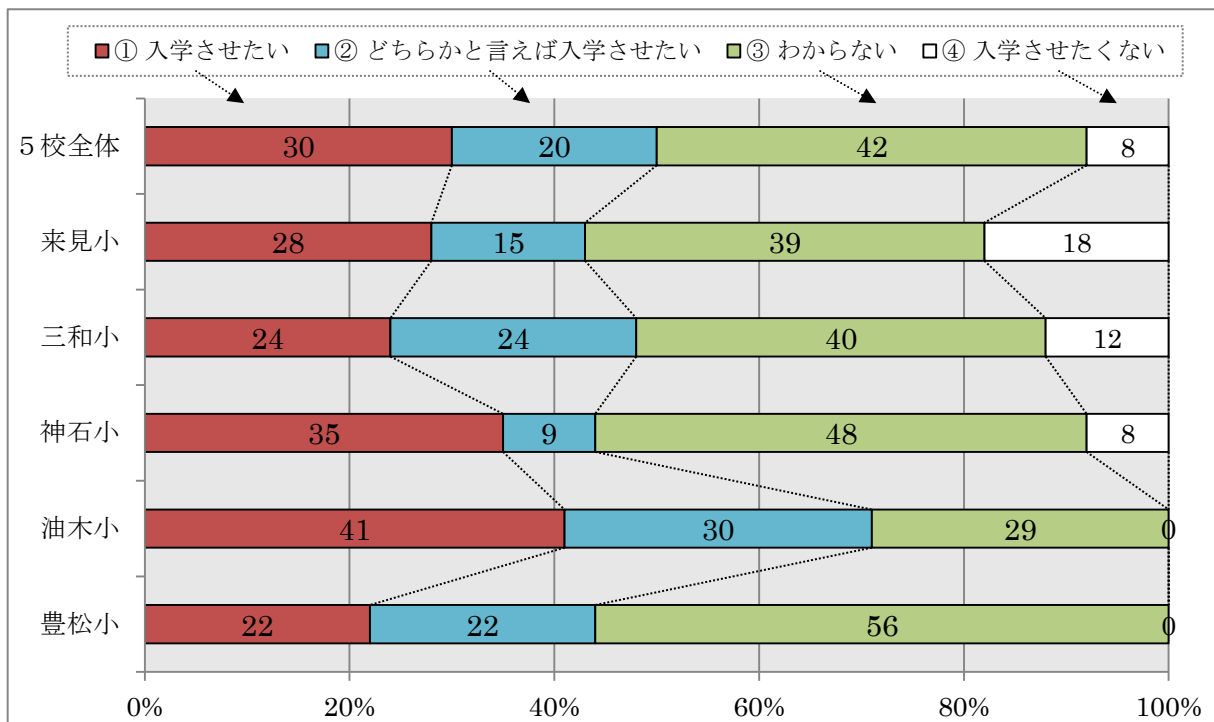
● 各中学校において、油木高校生(特に出身中学生)が頑張っている姿を、機会あるごとに後輩中学生に語っていただいたり、直接高校生が中学生に話していく機会(例：高校進路説明会、油高生による進路学習会など)を増やすことができれば、大変効果があると思われる。(高校は中学校へ随時情報提供を行っていく。)

<小・中保護者>

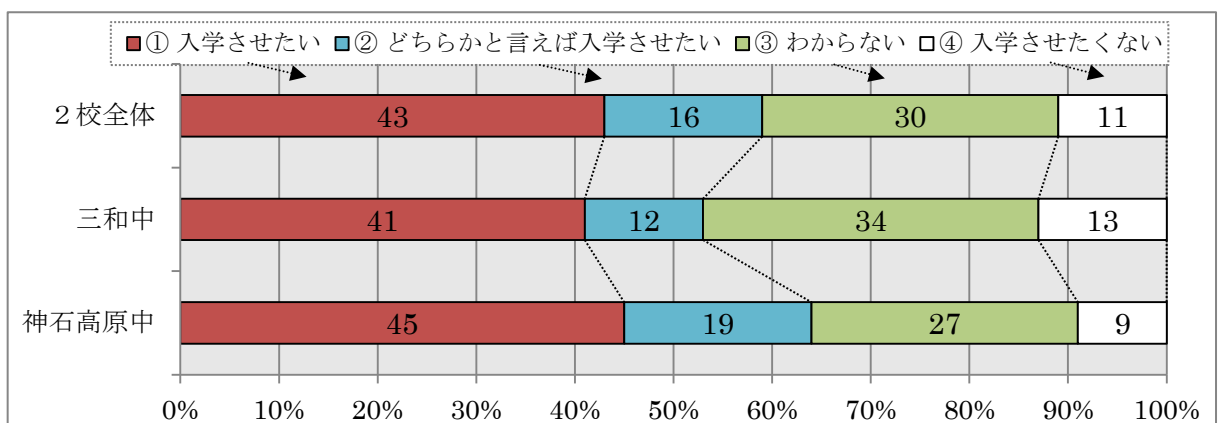
問 (1) あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。



<各小学校別では>



<各中学校別では>

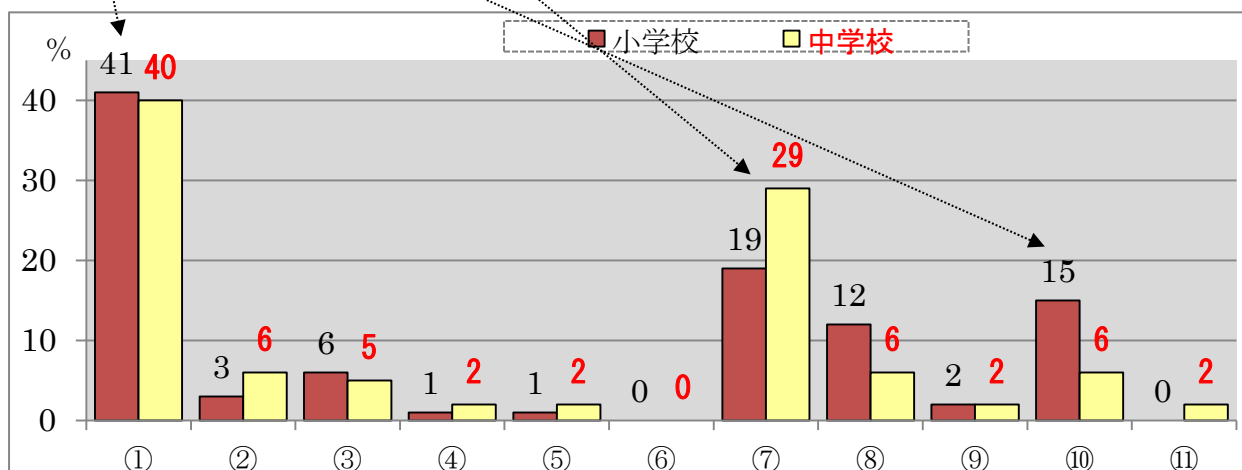


考察 ・全体としては、「入学させたい」肯定的回答は53%（昨年52%、一昨年53%）で、前年とほぼ同じである。一方、「入学させたくない」は11%（昨年8%、一昨年6%）で、少し増加した。

- ・小中学校別では、「入学させたい」は中学校が多く、「わからない」は小学校の方が多い。他は小中共に同じ位である。これらは高校進学時期の年齢差からくるものと思われる。
- ・各学校別の小学校では、「入学させたい」肯定的回答50%以上が昨年度は2校であったが、本年度は1校（油木小学校71%）のみであった。
- ・中学校において、両校とも「入学させたい」回答率は50%以上であるが、小中学校共に「わからない」の回答が30%前後あり、今後「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりに向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

(2) 上記(1)の質問で「① 入学させたい」or「② どちらかと言えば入学させたい」と答えられた方で、その理由と思われるものを下の中から選んでください。（複数回答可）

- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある
- ⑥ 施設設備がよい ⑦ 町の支援（公営塾、海外研修等） ⑧ 学校や生徒の雰囲気
- ⑨ 家族等の薦め ⑩ 友人関係 ⑪ その他



⑪ その他（小学校）

・

⑪ その他（中学校）

・子ども（兄弟）が入学しているため ・町から高校が亡くならないため ・子どもが入学を希望しているため

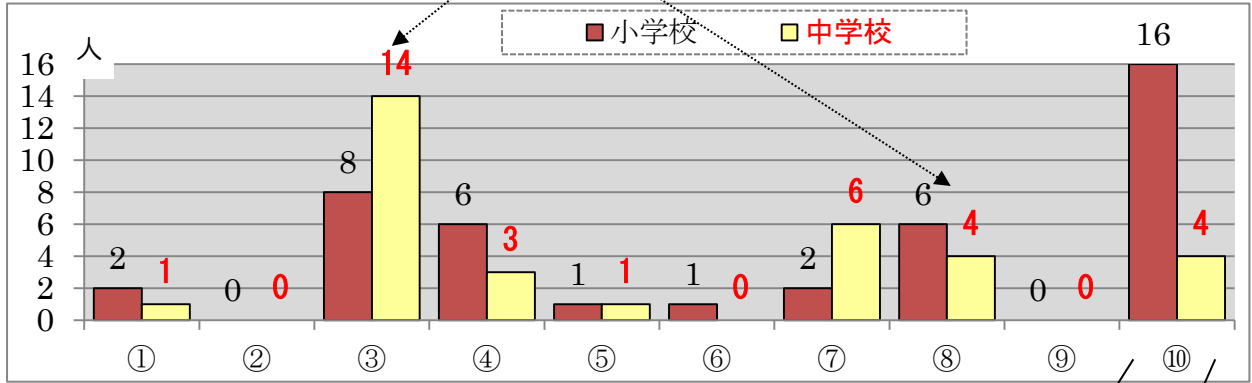
考察 ・小学校と中学校を比較した時、ほとんど同じような傾向といえる。即ち、油木高校を選択する理由は、多いものとして、①「通学に便利」と⑦「町の支援」の二つが際立って多かった。

これらのことから、保護者に受け入れられている「町の支援」はできるだけ継続しながら、費用対効果が上がるように中身の充実を図っていかねばならない。また、「通学の便」もかなり重要度が高く、アンケートの回答の中で、「油木高校へ行きたくない」理由（次ページ）として、バス便が少なくなったり、運賃が高いなど通学の便を不安視されている保護者が多かった。

これらのことから町としてできる支援策を今後においても検討しながら、油木高校の魅力アップにつなげていく必要がある。

(3) 上記 6(1) の質問で「④ 入学させたくない」と答えられた方は、子どもさんの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。下の中から最も重要視したいものを2つ選び、該当番号に○印をしてください。

- ① 通学の便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



⑩ その他 (小学校)

・町内のバスは高すぎるため ・他校の寮へ入れた方が安い(食事つき) ・人数の少ないところでなく多いところで様々な出会いをして欲しい ・大学へ出た時初めて町外の人と触れ合うより、早く色々な中学校出身の人と触れ合う経験もさせたいと思うことがある。(もう少し厳しい環境) ・医療関係か調理師関係の仕事をしたいが専門の科がないから ・今後も連携型中高一貫教育の取組に大変期待しています

⑩ その他 (中学校)

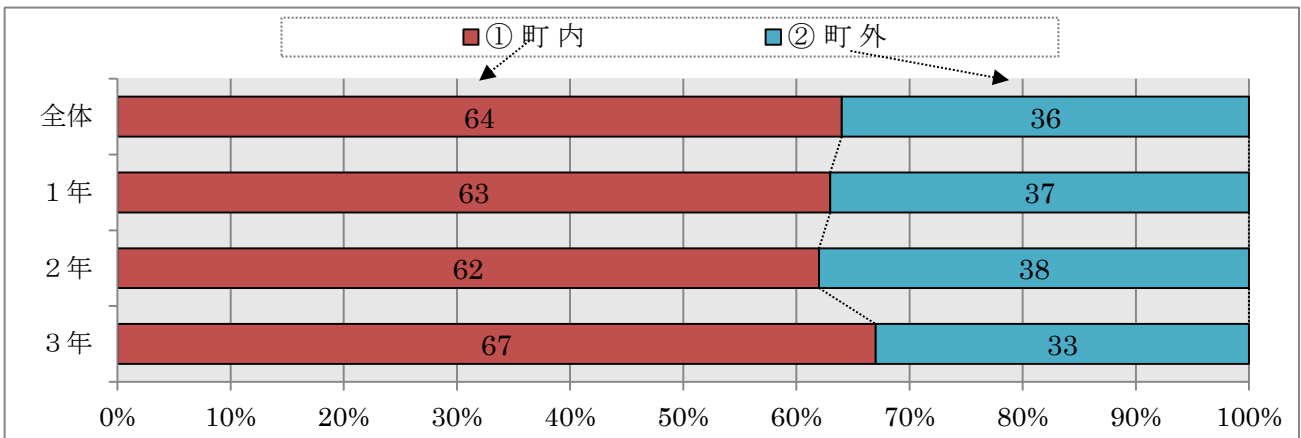
・良い先生がない ・他校に行くようにしている ・バスの便が少なく部活動も送り迎えは厳しい ・製菓衛生師や調理師など卒業までに資格が取ればよいと思う

考察 「油木高校へ入学させたくない」と答えられた方が高校進路選択をする上で、特に重要視したいものとして多いのは、小学校保護者では⑩「その他」であった。ついて③「子ども本人の希望」④「学習環境面」⑧「進路実績」となっている。

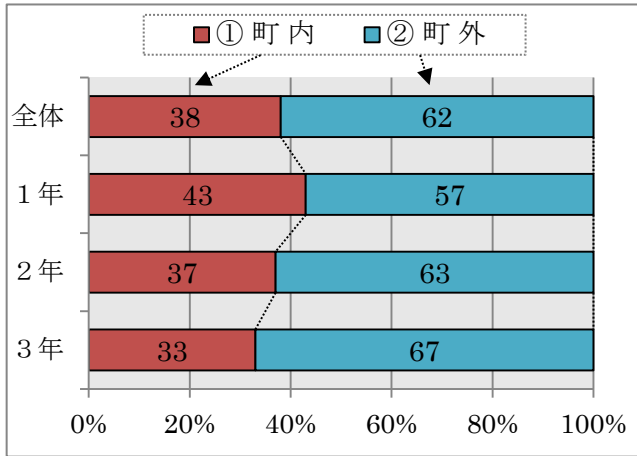
一方で、中学校保護者で最も多いのも ③「子ども本人の希望」。ついて⑦「クラブ活動面」、その他は度も項目も少数である。これらのことから、保護者の多くが「子ども本人の希望」を優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組が重要と思われる。

<高校生>

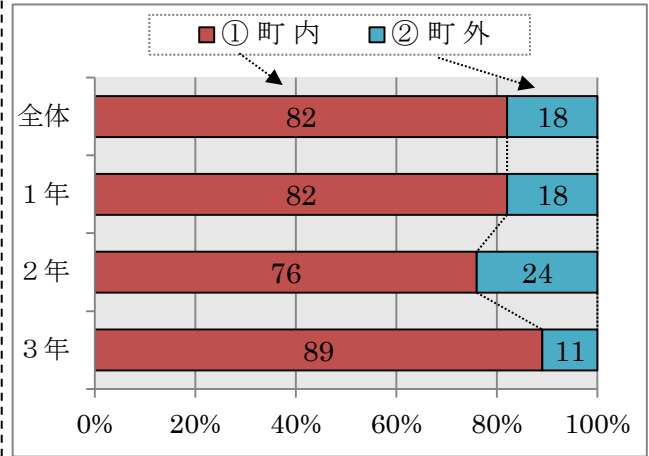
問 あなたの出身中学校は、どちらですか。 < 全体：学年別 >



<学科別：産業ビジネス科>



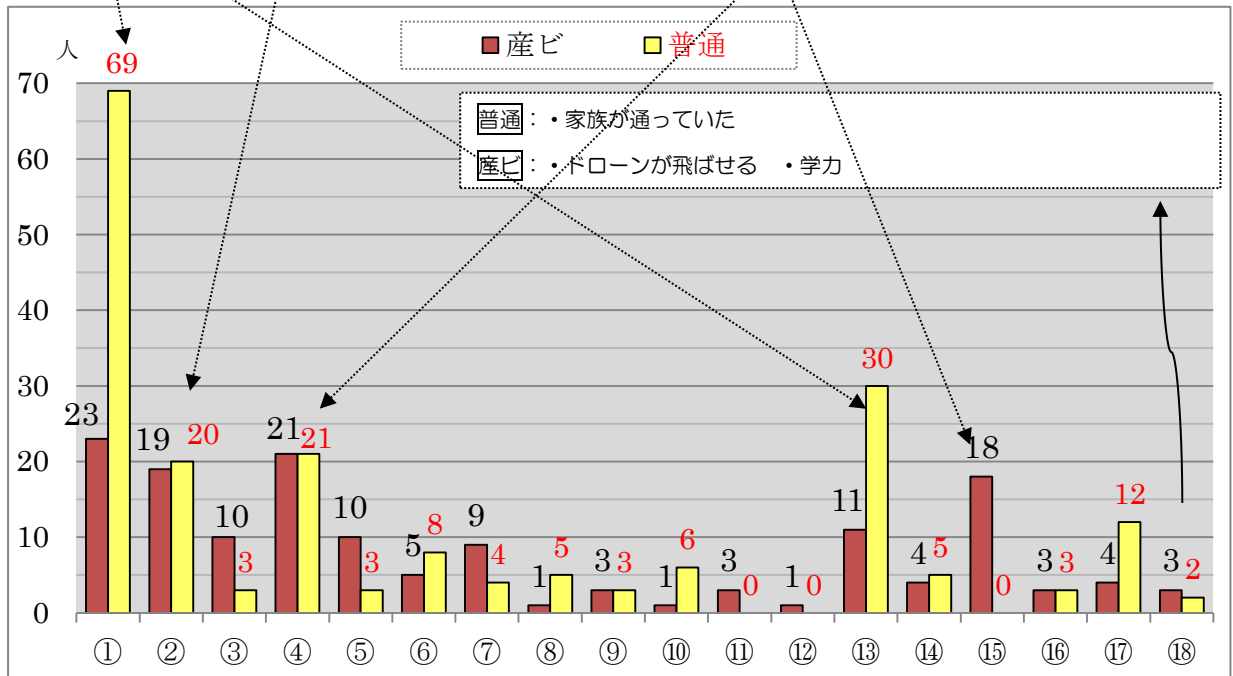
<学科別：普通科>



考察 ・全体的には、6.4 対 3.6 で町内生徒が多いが、学科別で見ると、産ビ科の町外生徒が 62%と断然多い。しかし、中高一貫教育校になる前（H26 年度以前）は、普通科への町外入学生徒はほとんどいなかったが、年によって数の増減はあるものの、本年度は 1 年生 5 人、2 年生 8 人、3 年生 3 人が通学している。

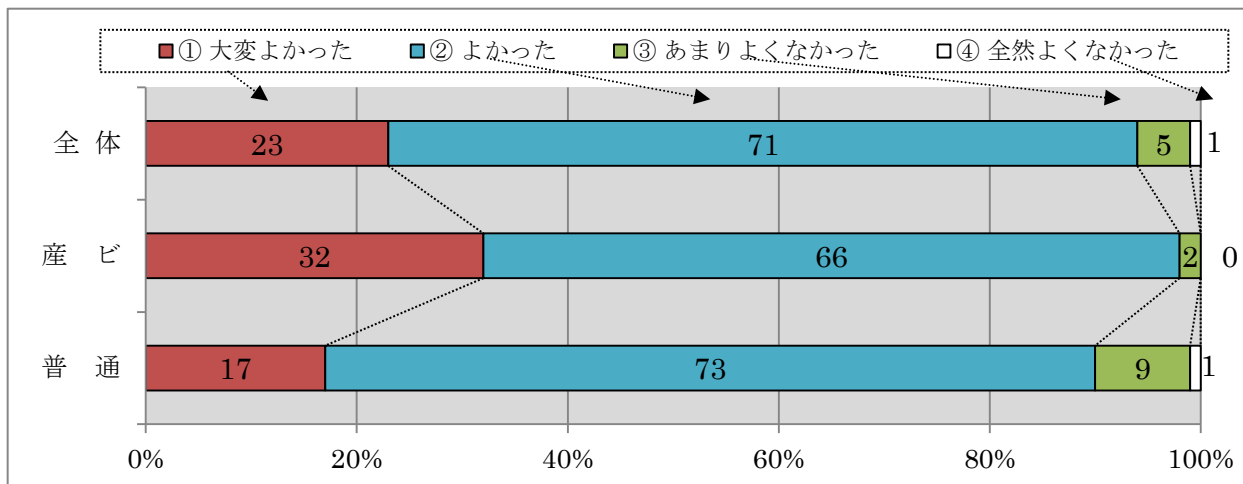
問 あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。下の①～⑱から該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

- | | | | |
|--------------------|------------------|-----------------|-------------------|
| ① <u>自宅から近い</u> | ② <u>親・家族の薦め</u> | ③ <u>先生の薦め</u> | ④ <u>自分の希望</u> |
| ⑤ <u>教育内容面</u> | ⑥ <u>部活動面</u> | ⑦ <u>寮がある</u> | ⑧ <u>はやぶさ塾がある</u> |
| ⑨ <u>放課後神ゼミがある</u> | ⑩ <u>海外研修がある</u> | ⑪ <u>進路実績</u> | ⑫ <u>評判</u> |
| ⑬ <u>友人関係</u> | ⑭ <u>経費が安い</u> | ⑮ <u>学科への興味</u> | ⑯ <u>通学費の補助</u> |
| ⑰ <u>兄弟が通学している</u> | ⑱ <u>その他（ ）</u> | | |

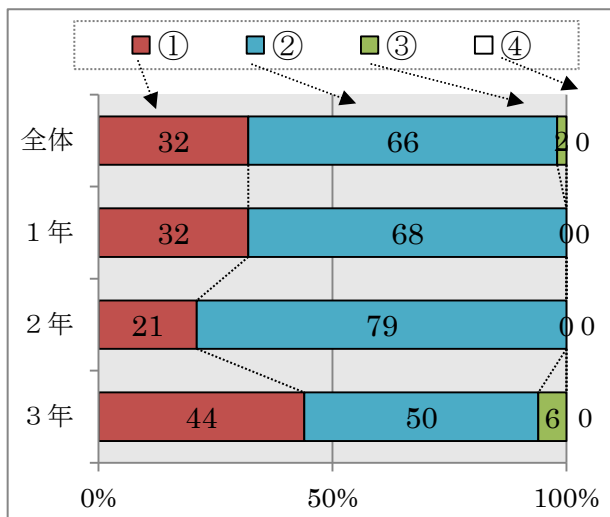


考察 ・全体的には、①「自宅から近い」や⑬「友人関係」、そして④「自分の希望」、②「親・家族の薦め」が多い。
・学科ごとで特徴的なのは、普通科では①「自宅から近い」⑬「友人関係」が産ビ科よりもかなり多く、産ビ科では⑮「学科への興味」③「先生の薦め」、⑤「教育内容面」が普通科と比して多いのが特徴である。

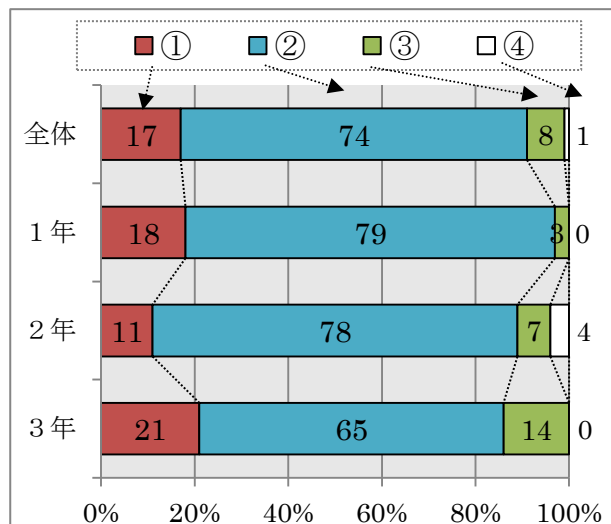
問 あなたは油木高校へ進学して、どうでしたか。



< 産業ビジネス科 >



< 普通科 >



考察 ・全体では、例年と同様に多くの生徒（94%：昨年90%）が「よかった」と肯定的回答をしている。
 ・学科ごとでは、「大変よかった」とする者が、産ビ科全体で32%（昨年28%）、普通科は17%（昨年21%）であった。反対に「よくなかった」とする否定的回答をしている生徒は、産ビ科2%（昨年10%）、普通科9%（昨年9%）であった。その中で、「全然よくなかった」とする生徒は、普通科に1%（1人）であった。
 ・学年、学科ごとでは、産ビ科の1・2年生が肯定的回答「よかった」が100%であった。昨年度との経年比較でみると、産ビ科3年の肯定的回答は（昨年89%→94%）、同じく2年生は（昨年94%→100%）、一方、普通科3年生は（昨年90%→86%）、2年生は（81%→89%）という回答率であった。